

「くらしの見直し講演会」を開催しました



LPA 井貝 順子

そのためには、まず自分の年金額を知ることが不可欠です。若い人は、今からでも働き方によって年金を増やすことができます。続いて、家計の現状の把握と、支出の見直し、保険の見直しの大切さについて話していただきました。

また病気になるたとき、一番に頼れるのは健康保険という話しもありました。民間の医療保険の多くは「入院」と「手術」をした時にしか支払われません。現在、入院の半分以上は10日以内、外来での治療が主になっているからです。

先生に、くらしに役立つ情報を丁寧に話していただき、あっという間の2時間でした。

- 老後貧乏にならないために、示されたのは次の3点です。
- 1 60歳までに貯めなければならぬ額を知る
 - 2 住宅ローンは定年までに完済を目指す
 - 3 保険を見直して貯蓄にまわそう

9月14日(金)「コープぎふくらしの見直し講演会」が、可児市文化創造センターalaで開催され、65名が参加されました。テーマは「40代からはじめる老後の資金作り〜老後不安解消術!」です。講師は、テレビ出演や新聞でコラム連載をされているファイナンシャルプランナーの深田晶恵先生です。講演会の内容を一部お知らせします。



お問い合わせ
コープぎふ LPA の会事務局
TEL 0581370167
13月(金) 9時~17時(土日休み)

お問い合わせ



くわださい。



感想

とてもわかりやすいお話で、勉強になりました。老後資金は貯めていまして、日々の家計の見直しで、もつとできることがあるとわかりました。ボーナス補填はダメ、よくわかりました。

民間医療保険に多く入りすぎていると感じました。生活を見直したくても、どうしてよいのかわからなかった。この講演会に飛びつきましたが、来てよかったです。

● ほんやりしていたことが、はつきりわかった感じがしてよかったです。貯蓄の取り崩しをできるだけ先延ばしにして、安心して100歳を迎えたいです。

組合員さんの声で 開発改善

「生協のめぐり米」の袋の仕様を変更しました。

組合員さんの声

チャックがついていますが、意外と幅が狭くて計量カップで出そうとすると、お米がこぼれてしまいます。もう少し、利用しやすくなりませんか。



声で改善

2018年予約登録分より、袋のチャックシールをなくし、袋口を広げました。生協のめぐり米は、「全国のお米をもっと企画してほしい」「少量での企画を充実して」といった組合員さんの声に応えるため、商品案内カタログでの予約登録限定商品として企画しています。

あなたのギモンにお答えします!!



きんぴら風ごぼう飯の素



Q 炊き上がったご飯に、後から混ぜても大丈夫ですか?

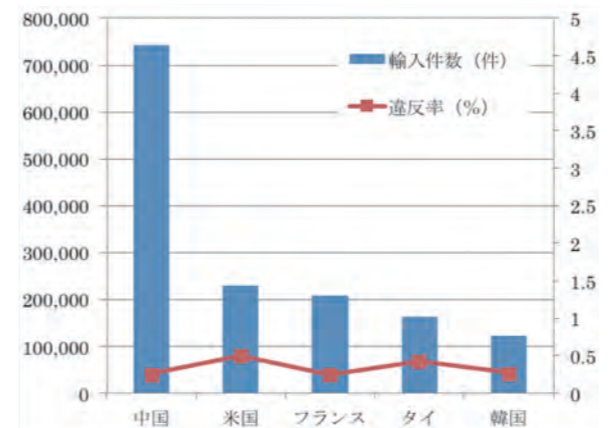
A 炊き上がった後に混ぜ込んでも構いません。炊き込むと、じんわり優しい味に仕上がりますが、混ぜ込むと、シャキシャキ感が残り辛味が際立ちます。炊き込むことでちょうどよい味になるようにつくられているため、混ぜ込んだ場合、具材の味が濃く感じられるかもしれません。

商品検査センターから

今月のテーマ 「輸入食品」の安全性、実際のところ

「輸入食品には、やっぱり気をつけた方がいいのでしょうか?」といった質問を、食の安全についての学習会などでよく受けます。特に気になるのが、中国からの輸入品でしょうか。ただ公的な資料には、特に中国からの輸入食品が危険であることを示すデータはないようです。

中国からの輸入食品の違反率は高くない



出典：厚生労働省 平成 28 年度輸入食品監視統計

このグラフは、平成28年度の輸入件数が多い上位5カ国の輸入件数と、輸入時の検査で残留農薬が発見されたなどの違反率を示したものです。輸入件数は中国が多いことが分かります。一方で、違反率はどれも横ばい。中国の違反率は、他国と比較して高いわけではありません。このグラフには示されていませんが、検査率も他国が8%程度であるのに対し、中国は10%程度と高く、監視も厳しく行われているようです。

また違う調査では、輸入食品と国産食品の違反率を比較したデータもありますが、こちらも大差ないという結果でした。

中国製品の違反が、多く報道されるのは…

中国からの輸入食品は、輸入件数が多く検査率も高い、となれば検査件数はどの国より多く実施されていることとなります。違反率が同等程度ならば、自ずと「違反件数」は多くなり、報道され、私たちの目に留まる頻度も増えるというわけです。

しかし実体として、中国製品が突出して危険だという結果にはなりません。輸入に携わる日本企業でも、消費者の不安をよくわかっているため、日本の工場以上に管理を強めているところも多いといわれています。

信頼できる輸入食品を購入しよう

国産品も輸入品も、原料から手元に届くまで管理がきちんとしていないか、確認できることが第一です。管理には、それなりのコストがかかります。激しい低価格志向の中で、「安ければいい」商品を輸入しようとする業者がいるのも事実です。明らかに安すぎるものや、表示があいまいでどこから仕入れたかわからないものなどは、やはり警戒する必要があります。

食の多様性、なかなか上がらない自給率、経済状況など、さまざまな理由から、これからも輸入食品に関わらずに過ごすのは難しくそうです。生協では、輸入食品はもとより全ての食品について、原料や製造工程の管理をしています。



2018年度 第4回 理事会だより(9/12)

1 8月期決算について承認しました。

単位:百万円

8月度事業結果	8月実績	予算差	累計実績	予算差
商品の供給高	1,964	0	10,524	-72
総事業高	2,035	-1	10,877	-75
事業経費	537	-4	2,494	-59
経常剰余金	-64	0	54	74
当期剰余金	-43	-6	37	49

組合員数 240,072名 計画比99.8% (加入632名)
出資金 41億7,720万円 一人当たり出資金 17,400円

2 コープベル受付営業時間の変更について報告がありました。

コープベルは、生協の間合せ窓口として電話での間合せを月曜から土曜日の午前9時から午後9時まで受付けていましたが、10月4週(10/28)よりコープベルの土曜日の営業時間を、午前9時から午後5時に変更しました。

3 西日本豪雨募金目録贈呈式が行われました。

9月25日(火)岐阜県庁にて、コープぎふ組合員さんから寄せいただいた西日本豪雨募金8,952,543円のうち半分と、コープぎふ災害支援積立金から50万円、合計4,976,272円を古田肇 岐阜県知事にお渡ししました。被災された皆さまの生活が1日も早く平常に戻りますよう、心より願っています。



4 中部学院大学の学生による、JAめぐみとコープぎふのコラボレーションに関する研究への参加協力について報告がありました。

中部学院大学と、JAめぐみ、コープぎふが連携して、地域経済、農業の活性化などをテーマにした共同研究を進めます。今回は、中部学院大学の学生のアイデアで新製品やビジネスモデルを創造し、JAめぐみやコープぎふの店舗などで調査や実験をして、その実現可能性を検証していきます。学生の皆さんに協同組合の事業に関心を持って貰い、今後の事業や活動に活かしていけることを期待しています。

